

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念はあるが、古いため、現在新しい基本理念を作っている。その中に地域密着型に関連する文言を盛り込む予定。	○	職員一人一人が理解し、家族にも解り易い理念にする。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念作成後は、職員一同理念の実践に向けて、日々取り組む。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	新しい理念作成後、家族や地域の方々にも報告・説明し、理念の浸透に努める。	○	新しい理念は、施設の一番目立つ場所に表示し、訪れる人の目に付き易いようにする。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	床屋は近所の理容店を利用する等、積極的に近隣とのコミュニケーションを図っている。	○	散歩の時には近隣の人々にも気軽に声をかけ、日常的な付き合いができるよう、職員も心がける。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市町村と連絡を取り合い、利用者が参加できる催し物等には、積極的に参加している。	○	これからも、地域の行事には積極的に参加する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日々利用者の状況を観察し、一緒に暮らしている中で、地域にも役立つことはないか、検討している。	○	利用者の現状や力を検討し、地域の高齢者等の暮らしに役立つことを見つけ出す。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価を参考に、取り組めていない事柄を検討のうえ改善の努力をしている。自己評価も職員全員が参加し、現在の施設の状況を把握している。	○	昨年の外部評価で指摘された事項と、今年の自己評価を見比べ、改善できていない点に取り組む。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、現在の施設の状況を市町村その他の委員に報告している。	○	管理者だけでなく、その他の職員も出席させ、施設全体でサービスの向上に取り組む。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市町村担当者と連絡を取り合い、場合によっては市町村に出向いて施設の状況を報告している。	○	これからも密に連絡をとり、市町村と一体となってサービスの質の向上を目指す。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当該事業や制度については、活用していない。	○	職員が当該事業や制度について理解し、活用できるよう取り組む。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスが虐待につながらないよう、職員同士、また管理者とも常に話し合いの場をもっている。	○	機会があれば、高齢者虐待防止関連法について学ぶ講習会を開き、認識を強めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や事務担当者が十分に説明を行っている。	○	他の職員もその場に参加し、補足することによって利用者や家族に十分な説明を行いたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に意見、不満等があるときは、日々接している職員が感じ取り、その都度話し合い、対応策を検討している。	○	利用者の意見、不満等を検討したときは、家族にも報告し、より良い対策を考えていく。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の際に利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、また状況に変化のあったときは、こちらから連絡をとるようにしている。	○	家族の面会の機会があまりない利用者に関しても、定期的に近況を報告できるようにしたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情等の受付窓口を、施設の見易い場所に表示している。	○	家族の面会の際に、職員が意見や不満を聞く時間を設けたり、目安箱を設置する等、家族が気軽に話せる雰囲気を作る。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各階の会議に参加して職員の意見を施設の運営に取り入れているほか、日常も職員との会話を多く持つように努力している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職場の緊急連絡網を作成し、必要に応じて柔軟な対応をとれる体制をとっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は利用者信頼してもらえよう努力し、管理者も職員が気持ちよく働ける環境づくりに努力している。		
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルの存在を職員全員が知っているとは言えないので、月1回の会議に話すようにしている。	○	各種マニュアルの存在を職員全員に周知し、見直す点があれば会議で検討する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の案内等は常に全職員に通達し、積極的な参加を求めている。	○	より多くの研修を受ける機会を確保するため、法人本部や関係市町村との連絡を密にするよう努力する。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や入居者の募集等を通じ、地域のケアマネや保健師、市町村職員と話し合いの場を持ち、意見を交換している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員を多めに雇用し、残業がほとんど発生しないようにする等、ストレスの軽減に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ボーナスを個人の実績に基づいて支給したり、職員が向上心を持って働けるよう配慮している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、管理者だけでなく職員も入居予定者の現状を把握できるよう努めている。	○	入居予定者の情報をできるだけ全職員に伝え、入居時には職員がその情報を理解できている状態であるように努める。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、利用者だけでなくその家族が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴くように努力している。	○	職員も、入居者本人だけではなく、家族の要望等をよく聴き、受けとめるよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の面会の際には、本人の生活状態等を報告し、必要な対応策を話し合うようにしている。	○	他のサービスも含めた対応策をとれるよう努力する。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には家族と職員がきちんと話し合い、利用者が施設の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。	○	職員も、利用者一人一人の状況をこまめに観察し、本人のペースで施設の環境に馴染めるよう努力する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人の表情や喜怒哀楽を汲み取り、楽しいときは一緒に笑い、不安や不満のあるときはそれを取り除くような声掛けを行っている。	○	利用者一人一人とコミュニケーションを図り、ゆとりのある時間を共有し、日常生活の中に楽しみをつくれるように支援する。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪れたときは利用者の近況の報告をし、特に変化があったときは電話で情報交換を行い、協力し合っている。	○	家族の訪問時だけでなく、日常の変化と一緒に向き合える協力体制を築いていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者本人と家族、それぞれの気持ちに配慮しながら、両者とのコミュニケーションを密に行っている。	○	利用者と家族がゆっくりと過ごせる場を提供し、時には両者の橋渡しのできるような関係を築いていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から思い出の場所や人との話しがでた時は傾聴し、記憶を引き出せるように声掛けを行っている。	○	本人の生活歴や習慣を重視し、出来る限り本人の馴染みの場所や人との関係を維持できるよう努める。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	突発的なもめごとがあった時も、両者中立の立場で仲裁に入るよう心がけ、孤立する利用者がでないようにしている。	○	利用者一人一人の性格や日常生活を理解し、利用者どうしがコミュニケーションを円滑に図れるよう、橋渡ししていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他の施設への転居等で利用の中断又は退去となったときも、面会に行ったりして関係が切れまいよう努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の意向にできるだけ添うよう努力しており、集団生活の中でそれが困難な事項については説得し、本人が納得のうえでやっている。	○	利用者一人一人の声に耳を傾け、集団生活の中でも個人生活を保持できるよう配慮する。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から入居以前の状況について詳しく聞き、できるだけ生活パターンを変えないよう努めている。	○	家族や以前のサービス担当者等との情報の交換を図り、利用者に対する理解を深めるよう努力する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人生活記録に利用者の日々の状態を記載し、職員一人一人が理解できるよう努めている。	○	利用者の日々の心身の変化について、職員全員が把握できるよう、情報の交換と統一に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族からは、普段、意見等を聞くよう心がけ、職員間では、月1回カンファランスを開き、意見交換をしている。	○	必要があるときは、その都度話し合いの場を持ち、利用者にとって最善の介護計画がたてられるよう考えていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者本人の状態に合わせた介護計画の見直しを行い、必要があれば、その都度話し合う機会を設けている。	○	介護計画と利用者の状態とに変化が生じたときは、常に話し合いの場をもつよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子は常に記録し、その情報は毎日職員間で申し送りしている。	○	利用者の日々の様子やケアの実践結果、気づいた点や工夫した記録を参考に、必要であれば介護計画を見直している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を聞き、同じ法人内の居宅介護支援事業所などと連携し、支援するよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の委員に地域代表者を加えて意見を聞いたり、消防署の指導のもと避難訓練を実施したりして、協力を得ながら支援している。	○	これからも地域住民やボランティア、関係諸官庁の協力のもと、利用者を支援していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は施設以外の他のサービスは利用していない。今後は(法律の許す範囲内で)いろいろなサービスを利用できるよう検討したい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員に地域包括支援センターの職員を加え、意見を聞いたり、協力を得ながら支援している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医での診療を継続し、利用者に異常があったときは、常に連絡をとっている。	○	かかりつけ医との連絡・連携を今以上に深めていくよう努力する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの脳外科等での受診の際は、医師に相談し、必要な診療が受けられるよう支援している。	○	リハビリセンターにある「もの忘れ外来」に当施設からも1名通っており、もっと多くの利用者通えるようにしたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設の看護職員やかかりつけ医の看護師と相談しながら、入居者の健康管理に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、職員が入院先にこまめに足を運び、病院関係者との情報交換と相談に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、家族にはターミナルケアは行わない旨を説明しており、そのことを全職員が認識している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、主治医と連携しながら、施設での生活が無理との判断がなされた場合は、入院あるいは他の施設への転居等の支援を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が住み替えを行う際は、地域包括支援センター等と連携し、極力ストレスの無いように配慮しながら、援助している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者一人一人の誇りやプライバシーに配慮し、また個人情報の取り扱いには最善の注意を払っている。	○ 個人情報の管理はもちろん、言葉掛けや対応にも同様に配慮する。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	利用者一人一人の思いや希望を汲み取り、その利用者に合わせて支援をしている。	○ 利用者の希望を尊重し、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせる環境を提供できるよう努めていく。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者本人の生活リズムを尊重し、職員側の都合を押し付けないよう努めている。	○ 職員の都合を押し付けたり、優先したりせず、利用者一人一人の生活リズムを把握できるよう努力する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	利用者が希望するときは、家族と相談のうえ本人の望む理美容店に行けるよう支援し、その他のときは近所の理容店に行っている。	○ 定期的な散髪はもちろん、本人の希望があればパーマ、染髪等にも協力している。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	リビングに一週間分の献立表を掲示し、利用者が楽しみを持てるよう声掛けもしている。	○ 利用者一人一人の希望や好みに応えられるよう、努力・工夫をしていきたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	家族や主治医と相談のうえ、健康上問題のない場合には、日常楽しめるよう支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の「排泄チェック表」を作成し、排泄パターンを把握したうえ、それぞれの習慣に合った気持ちのよい排泄ができるよう支援している。	○	夜間失禁する利用者についても、時間に合わせトイレに誘導する等、支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の準備は毎日行い、利用者個々の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるようにしている。	○	日和や時間帯によって入浴を拒否する利用者に対しては、会話や声掛けによって気持ちを落ち着かせてから入浴させるよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを大切に、それぞれの就寝時間に合わせ、安心して気持ちよく休息・睡眠をとれるよう支援している。	○	気持ちの落ち着かない利用者に対しては、会話や声掛けを行って落ち着かせている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の能力を把握し、日々の暮らしの中で本人の力を活用した役割、楽しみごと、気晴らしができるよう支援している。	○	利用者一人一人の能力について職員どうし話し合い、本人のできる役割、楽しみごとを見つけ出すよう努力する。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時などは、利用者が好きなものを購入する機会を作っており、利用者の能力に応じて支払いも手伝ってもらっている。	○	現在は職員が一括して金銭を管理しているが、利用者の能力に応じて、金銭を管理する環境を整えていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考慮し、タイミングの良い日には戸外に出かけるようにしている。	○	いつでも職員と一緒に出かけられるような体制作りに取り組む。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で、利用者個々の希望や行ってみたい場所を聞きだし、天候や利用者の体調の良い時に出かけるようにしている。	○	職員の体制を整え、利用者の希望や行ってみたい場所に行けるように努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話をしたり、手紙が届いたときは、本人の前で封を切り、読んであげる等の助力をしている。	○	利用者にも、家族からも気軽に電話のやりとりができる環境を作るよう取り組む。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族、知人が訪れたときは、何時でも気軽に訪問して下さるよう、声をかけている。	○	利用者の家族、知人等がもっと気軽に訪問できるような環境づくりを行いたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人格を尊重し、職員相互の話し合いの中で、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	これからも、法律で禁止されている具体的な行為の理解を深めていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室や玄関(日中)は施錠していない。夜間は、居室は利用者の判断に委ね、玄関は午後8時に施錠している。	○	今後も施錠することの弊害を理解し、施錠しないケアに取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の心身の状況に応じ、プライバシーに配慮しながら、昼夜を通して所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の能力に応じ、危険性のない物品はそれぞれ管理してもらっている。	○	利用者の状況変化を早期に発見し、危険性のあるときは一旦預かるなどして、危険防止に努める。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があったときは報告書を作成し、全職員に回覧して事故防止対策に役立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年、救命救急講習を消防署にお願いし、応急手当やAEDの使い方の勉強を行った。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の協力を得て火災の際の避難訓練を行っている。しかし、水難や地震の際の避難に関するマニュアルは無く、今後整備が必要。	○	避難時に携行する道具類の整備も必要。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	夜間以外は玄関の施錠をせず、自由に出入りできるようにしている。その分、利用者の徘徊に対し、職員が気配りに心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや入浴時などに、入居者の体調の変化に注意し、看護職員と連携しながら、必要に応じて受診する等して対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は毎朝1日分を小箱に移し、間違いなく服薬するよう支援している。体調の変化により服薬が変わったときは記録し、情報を共有して間違いのないように対応している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士の作成したメニューを使用して、バランスの良い食事をとれるように工夫している。また、適度の運動を行うよう声掛けをしながら援助している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行うよう支援している。義歯の洗浄の介助も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分の摂取量、摂取時間を記録し、適切に水分が補給されるよう努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一昨年ノロウイルスに感染した経験を踏まえ、その際に得た衛生管理のノウハウを活用して予防対策を講じている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は必ず火を通すようにし、食器、調理器具は毎回食器洗浄機で洗浄し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の周りに花を植えたり、玄関先に植木鉢を置いたりして、近隣の方が訪れ易いように配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、建物の建築段階で音や採光に配慮しており、またエントランスに花を飾り、季節感を出すよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳の間にコタツを置いて気楽に楽しめる場所としたり、食卓用の椅子とは別にソファも置き、くつろげるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家族にグループホームの趣旨を説明し、利用者が使い慣れた家具や調度品を居室に持ち込み、居心地良く過ごせるよう協力をお願いしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や共用部分の温度調節・換気はこまめに行い、利用者の健康管理に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子のままは入れるように広いスペースをとり、風呂場や廊下には手摺りを設置し、入居者個々の身体機能に応じ自律した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失禁のある利用者に対しては、定期的または素振りを観察してトイレに誘導したり、本人のわかる力を活用するよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の庭に畑を作り、野菜の栽培を楽しんだり、職員と一緒に庭の草取りをして体を動かしたりしている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が張り合いを持ち、毎日を生きいきと過ごせるような施設にできるとよい。また、職員がもっと勉強し、適切なケアをできるようにしたい。